



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三六二号〕

小寒 しょうかん

一月五日

寅年

新年おめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。
令和四年は寅年。動物の虎は日本ではなじみがあるものの、じつは日本には生息していません。しかし、古くから、その名は知られていたようです。

『日本書紀』には、欽明天皇六年に百済で虎の皮を剥いだ際に出会った虎を「威かしこき神」、『万葉集』には「韓国の虎といふ神を」と記されています。いずれも神ととらえ、特別な力を持つ靈獸れいじゅうとみなされていました。そして、古墳にもその姿が描かれていました。奈良県のキトラ古墳の壁画には、西方を司るといわれる「白虎びやくこ図」が描かれていました。白い虎は、いつそう神々しく感じます。

また寅といえ、聖徳太子の逸話もあります。奈良県平群町の信貴山しんぎさん朝護孫子寺あさごそんしじは、聖徳太子が、寅の年、寅の日、寅の刻(午前四時頃)にこの地で毘沙門天びしゃもんてんを感得かんとくしたことから、「信貴山の毘沙門さん」と信仰されています。寅年の今年、聖徳太子没後一四〇〇年にあたるのも格別の機会となりそうです。

伊勢で寅年にちなむものといえば、伊勢神宮の干支守えとりがあります。神宮林のクス材を使用した一刀彫りは、愛知県岡崎市の彫刻家山下清さんのデザインを基に、伊勢市内外の彫刻家十八人が春から制作をすすめたもの。「初春の朝日に勢い盛んに猛進する寅として表現した」といいます。大小二種類で、神宮の奉製所ほうせいじょでは九月頃から年末にかけて、職員が一刀彫りとお守りをモミ材の特製木箱に詰めました。

猛獣の力は、疫病除けにも描かれてきました。寅年の今年は、寅の力にあやかり、疫病退散を願いたいものです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『おかげ横丁迎春祭』

新型コロナウイルス対策の一環として初詣の「密」分散のため、1月中旬以降の平日に県内外の和太鼓チームによる新春演奏を披露します。

また、15日、22日、23日には県内伝統芸能による門付けを予定しております。

初詣にお出かけの際は、おかげ横丁で迫力の演奏をお楽しみください。

期 間／令和4年1月11日(火)～28日(金)の平日

時 間／各日3回(午前11時～、午後2時～、午後3時半)

※11日、14日は1日2回公演となります。

場 所／おかげ横丁内 太鼓櫓

出 演／太鼓芸能集団鼓童(新潟県)、

和力(長野県)、

志多ら(愛知県)、

舞太鼓あすか組(奈良県)、

神恩太鼓(三重県伊勢市／おかげ横丁)

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『伊勢の神像』

神の像と聞いて思い浮かべるのはキリスト像とか12使徒像とかキリスト教関係のものか、またはヒンズー教の神ですよね。

神道の神様は山とか岩とか木とか元々が自然崇拝なので人の形としてはごく少数しかありません。その中でも有名な朝熊山金剛證寺にある雨宝童子立像です。

空海がこの山において天照大御神16歳の御姿を感得して彫ったとされ国の重要文化財になっています。

また2100年前の創建と伝わる鈴鹿市の伊奈富神社には平安時代の作とされる第10代崇神天皇の木像と伝わるものや隨身像、狛犬15軀が残されています。

また、多気町の御霊神社(河田神社)には平安時代の作とされる木造の神像2軀があります。こんなにあるとは思ってもよらないことですね。

神像という言葉が文献に初めて現れるのは8世紀後半の「多度神宮寺伽藍縁起并資財帳」だそうです。これも国の重要文化財になっています。三重県ってすごいと思いませんか？

と き／1月17日(月) 13:30～15:00

講 師／滝川 和也(三重県総合博物館調査・資料情報課課長)

参加費／一般 1,450円 会員 950円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『五十鈴茶屋節気菓子』

えとがし たら
干支菓子・寅
(1月19日まで販売)

早春らしい淡い黄色の羊羹の上に、ふんわりと蒸し上げた白いカルカン生地。山羊の風味と口あたりの良い食感をお楽しみください。

きょくじつ
旭日
(1月7日まで販売)

紅色の練りきりで白餡を包み、元旦の初日の出に見立てました。神々しい陽の光を表した金箔を添えて、おめでたい新春を祝います。

よろこび
佳び
(1月8日から19日まで販売)

新たな年を迎えたよろこびを、恭賀の思いをこめて、紅白のきんとんで表現いたしました。中に粒餡を包んでおります。